

放出は
仕方ない？



東京電力福島第一原発

ALPS処理水 海洋放出



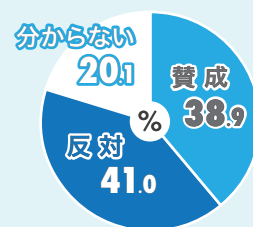
一度流したら
回収できない

↑ | このまま進んで | ↑
| だいじょうぶ？ |

国・東京電力は福島第一原発の「ALPS処理水」を、今年春から遅くとも夏までには放出を開始しようとしています。しかし「関係者の理解なく放出しない」という約束があります。多くの県民や団体が海洋放出に不安を持っています。地元紙の世論調査でも県民世論は二分しています。

それにもかかわらず「結論」と「日程」ありきで突き進む国のやり方は、「日本では原発事故は起きない」と言って原発を推進してきた「安全神話」を思い出させます。一度放出してしまえば回収はできません。「仕方ない」と思っている方も一度立ち止まって、一緒に考えてみませんか。

福島第1原発の処理水を海洋放出する処分方法に賛成か。反対か



福島民報・福島テレビ
共同世論調査（第40回）より

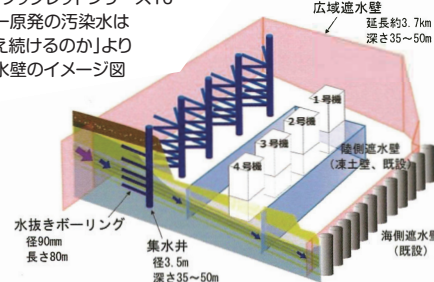
流さない選択肢、あります。

こういきしゃすいへき

① 広域遮水壁で、新たな汚染水の発生を押さえ込む。

地質学の専門家で、福島県の「廃炉に関する安全監視協議会」専門委員でもある福島大学の教授たちの研究グループは、「広域遮水壁」と「集水井・水抜きボーリング」という、これまでにすでに確立されている2つの技術で、地下水が原発に入り込む量を大幅に減らせると提案しています。

「地研研ブックレットシリーズ16
福島第一原発の汚染水はなぜ増え続けるのか」より
広域遮水壁のイメージ図



② 丈夫なタンクに移し替える。

汚染水の発生を大幅に減らすことができれば、その分保管するタンクを増やさずにすみます。石油コンビナートなどで使用する大型で耐久性の高いタンクに移し替えれば、今より少ない面積で、より安全に一定期間保管しておくことが可能になります。デブリ取り出しに見通しが立っていないことなどをふまれば、第一原発敷地内での陸上保管は十分に現実的な選択です。

③ みんなが納得できる解決方法を確立する。

県民が納得していないなか、他に案があるのに、いま焦って海洋放出しなければならない理由はありません。必要な手立てをとって、当面陸上保管する。その間に、みんなが納得できる解決方法を確立する。これこそが責任ある対応ではないでしょうか。

抜本的な汚染水発生量の削減対策が必要

福島大学教授
柴崎直明さん



汚染水が今でも増え続けていることが海洋放出の根本的な理由です。2025年までに一日あたり平均100トンにする国・東電の目標では不十分です。私たちが提案する広域遮水壁などの抜本的な削減対策を早急に実施すべきです。

もう一度、世界の英知を集めて考えよう。

Q&A

海洋放出は止められる？ ギモンにこたえます



Q1 タンクがあったら復興の妨げになるのでは？

A1

海洋放出を前提とした今の東電の計画では、かなり甘く見積もっても、放出開始から少なくとも30年以上はタンクが無くならない計画です。しかし、新たな汚染水の発生を止められれば、タンクを増やす必要はなくなり、半減期による減衰も期待できるようになります。ですから海洋放出を急ぐ必要はありません。

Q2 「海洋放出は安全」って聞いたけど？

A2

いまタンクに貯められている水は、通常原発からの排水とは違い、トリチウム以外にも事故由来の核種が多く残っています。東電は「二次処理すればトリチウム以外の核種は基準値以下にできる」と言いますが、完全に取り除けるわけではありません。何十年にわたって放出をした場合、海洋環境にどのような影響が出るかは十分に分かっていません。焦って海洋放出をしなければならない理由はありません。

Q3 陸上保管を続けた場合、最終的にどうする？

A3

どれだけの期間タンクに貯蔵するか、いまから「結論ありき」にはできません。根本的な解決策としてトリチウムの分離技術の開発に力を入れていくことも必要です。タンクが維持される30～40年の間に、国民的な理解が得られる方法で解決することが必要です。

Q4 広域遮水壁は、お金がかかるのでは？

A4

海洋放出するよりも安くできます。原発事故の被害にあった県民の不安をコストで測ることができるでしょうか。広域遮水壁は、実施された凍土壁よりも、海洋放出のためのトンネル工事の予算や、風評対策費よりも安価に実施できます。

実施のための費用の比較(円)

広域遮水壁	※ ¹ 約160億
凍土壁	※ ² 345億 さらに年間数10億円の維持費
海洋放出 トンネル工事	※ ³ 430億
海洋放出 風評対策費用	※ ⁴ 300億

※¹※²「地研研ブックレットシリーズ16 福島第一原発の汚染水はなぜ増え続けるのか」より
※³2022年4月12日、共同通信報道により
※⁴経産省/令和3年度補正予算の事業概要より



いわき市・底引き漁業者
芳賀文夫さん

処理水の海洋放出には断固反対です。これまで少しづつ魚種を増やして、今では大部分は放射性物質は限界値未満です。2年前に政府は海洋放出を決めました。漁連、組合騒然となりました。ALPSで処理された水でももとは汚染水です。国が責任をもつと言っていますが、信用できません。不安です。



福島大学准教授
林 薫平さん

福島原発の廃炉の確かな実行と、その廃棄物の安全な管理を、国民全体の課題にしていかなければならず、ALPS処理水はその最初の一步にすべきです。

原発再稼働で 電気代が下がる？



今の電気料金値上げは、世界の化石燃料価格の上昇と円安が主な原因です。原発は動いてなくても年間1兆円ほど費用がかかり、私たちの電気代でまかなわれています。そのため、原発をやめたほうが電気代は下がります。

エネルギー市場の影響が少ない、地産地消の再生可能エネルギーこそ推進すべきです。

▶ 取り組みについて、もっと知る
原発をなくす全国連絡会
<https://www.no-genpatu.jp>

